

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300282		
法人名	株式会社寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム北本		
所在地	埼玉県北本市緑3丁目16番地		
自己評価作成日	令和 元 年 12 月 29 日	評価結果市町村受理日	令和2年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 2年 1 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族交流会を年2~4回実施しており、定期的にご家族との意見交換をしている。訪問しやすい環境を整え、半数以上のご家族が頻りに面会にみえる。日常会話が増えることによりスタッフ間との信頼関係も向上。</li> <li>・入居者の出来ることを活かし、一人ひとりが活躍できる環境づくりに努めている。笑顔が溢れる日々を過ごしている。</li> <li>・同じ敷地内にデイサービスと居宅介護支援事業所があるので、連携が取りやすい環境である。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家族が訪問しやすい環境を作る事により、利用者と家族が活発に話が出来ようになった。具体的には、玄関の明かりをつけて明るくし、スリッパは、常時いっつか出しておくようにした。面会時は、職員から家族に話しかけ、利用者の近況報告をしている。その事により、家族と利用者の共通の話題が出来、以前に比べて会話が活発になっている様子が見られている。また、職員は利用者の出来る事は、日常生活の中でおこなってもらおうとしている。例えば、女性利用者が入居前に主婦としておこなっていたであろう、食器拭きや洗濯物たたみ等の手伝いをお願いした。暫くすると、利用者自ら「私がするから取っおいて」等の声が聞かれるようになった。事業所の中で「役割」が出来た事で、生活が活性化し、生き生きとした表情で暮らす利用者の姿が見られるようになった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の入り口に「理念」を掲示し、毎朝唱和している。 各ユニットで毎年「今年の目標」を決めて実践できるよう努めている。	事業所独自の理念に基づいた年間目標を、ユニット毎に作成している。職員は、目標を基に自ら考えて自発的に支援しており、それを管理者が確認している。それている場合は、声かけして目標を意識してもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で行う祭りや清掃活動、運動会など、地域の一員として参加している。	利用者の身体状態の変化により、交流は少なくなっているが、地域の中で認知してもらう為に、自治会行事や運動会等に行き、散歩にも出ている。利用者は、来所するボランティアを嬉しそうに表情で迎えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地区の自治会長にも参加していただき、認知症の方や施設についての理解をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を開催。 施設の利用状況や意見交換を行っている。 参加者はご家族代表、市役所職員、地域包括職員、自治会長、民生委員の方である。	イベントや事故報告等を伝えている。家族から外食レク時の協力の申し出があり、一緒に外出した際、利用者は嬉しそうに過ごしていた。会議の内容は、広報紙や家族会を通して出席しない家族にも伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な運営推進会議において情報交換をしている。3ヶ月に1度開催される市役所主催の連絡部会において、他施設の方との情報交換も努めている。	市担当者とは顔馴染みで、毎月空室状況報告をし、書類提出に出向く。台風接近時は、連絡を取り合った。市主催の研修に参加し、連絡部会は、他事業所の情報が聞け、新たな支援のきっかけ作りになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会において隔月でカンファレンスを行い、身体拘束ゼロに向けての取り組みを図っている。	身体拘束等について、勉強会の実施や各フロアで確認している。家族から、身体拘束の要望があった場合は、出来ない事を説明し、やむを得ず実施する場合は、毎月カンファレンスをおこない、拘束をしないようにする為の話し合いをおこなっている。	事業所として、定期的に身体拘束をしないケアについて話し合いをしている。支援は、チームでおこなう為、職員個々の身体拘束に対する意識を深め、今以上に取り組みをしていく事を望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修(勉強会)に参加、意識向上と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では必要とされているかたはいらっしゃらない。 要望があれば都度支援出来るよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には入居者様、ご家族に十分な説明を行い不安点や疑問点がないか確認している。全てにおいて納得がいくまでご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方に運営推進会議に出席いただき、ご意見・ご要望を伺っている。それを運営に反映している。	事業所に対して、家族は意見を言いにくい事をふまえて、家族会や面会時に声かけをしている。意見があった場合は、事業所内で話し合い、内容によっては本社に報告して、アドバイスをもらう仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開催し、職員間の意見交換を図っている。ノートを活用したり、口頭での連絡や報告、相談が密になるよう努めている。	管理者は、会議の他、業務の合間に声かけして意見等を聞いている。課題が出た時は、その都度話し合う。食事レクの提案から、おはぎ作りを実施した時は、利用者の生き生きとした姿が見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回人事考課を実施、職員の自己評価を踏まえ、上肢が面接を行い悩みや要望などを聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の機会を持ち、委員会活動などを通して個々の能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の連絡部会(3ヶ月に1度開催)に参加し、他施設の方との情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子を見、お話を聞きながら安心していただけるよう声掛けなどを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お家での様子や心配、希望を伺いながら不安を減らし可能な範囲内で希望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを把握し、困っていることの解消の為に様々なサービスを念頭においている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	整容や身の回りの整理整頓、食後の食器拭きなど、出来る限りご利用者様に行っていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人とそれぞれ良い関係作りに努めている。訪問しやすい環境を整え、相談に乗りながら共に支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの習慣や好きなこと、人とのかかわりがまったく変わってしまう事がない様、支援している。	入居前の関係性は、利用者や家族の話から推測し、職員間で情報共有をおこなう。友人の訪問時は、居室でプライベートな空間を提供し、人との係わりや親族との定期的な外出が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や好み、相性などを観察し、嫌な思いをする方がいない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも施設の行事に招待したり、ご家族の方にヴァイオリン等得意な分野があればイベント時に披露したいと期待している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向に出来る限り添えるよう努めている。困難な場合はご家族の要望やご本人の状態を参考に検討している。	意向は利用者の分かり易い言葉を使って聞くようにし、言葉での表現が難しい場合は、家族に聞いている。職員は、カンファレンスで意見交換し、利用者の心身現状を考慮しながら、本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を知り、馴染みの暮らし方と少しでも同じ環境を提供して快適に過ごしていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがご自分のペースで過ごせるように努めている。身体面や精神面の変化に気付くようスタッフ間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望に答えられるよう努めている。カンファレンスを開き、スタッフ間の意見交換や情報を参考にして現状にあった計画の作成に努めている。	カンファレンスに欠席する職員の意見は、事前に声かけし、利用者等の意向と職員の意見、医療職等の情報を参考に話し合う。追加や変更の場合は、病院等の情報に基づき、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気づきや実践したケア、その結果など情報の共有が出来るよう細かく記録を取り、小さな変化にも気付くよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	NSやDr、ケアマネ等に相談し、ニーズに応えられるよう、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店や学会へ出掛けたり、地域のお祭りに参加し他者との会話や交流を楽しんでいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、Drが往診にみえる。状態を診ていただき、状況を報告している。熱発や特変があった時には都度連絡をし、指示を仰いでいる。	入居時にかかりつけ医の選択が出来る。診療結果は、重要度に応じて電話や面会時に伝え、家族の同席も可能である。緊急時は「医療情報パス」を持参し、担当医師に利用者情報を伝え、情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問あり。状態を看ていただき、状況報告をしている。相談や質問に対してアドバイスや指示をいただき、実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーに詳しく記載し、NSやケースワーカーと情報の交換に努めている。定期的に状態を見に行き、現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご家族と話し合い、治療方法を決めている。ホームではできる限りのことを行い、DrやNSと連携して支援に取り組んでいる。	利用者の身体状態の変化時から、医師と相談しつつ段階的に家族と話しあう。家族の気持ちに寄り添い、その都度不安や悩みを聴いている。方針は職員に、カンファレンスで伝えて共有する。退居の場合は、次の施設に書面で情報を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や物を詰ませた時の対応など、消防署の方から教わり、全職員が実践できる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方がみえ、防災・避難訓練を定期的実践している。	消防署員からのアドバイスは、職員に伝え、次回の訓練に反映しようとしている。地域住民から協力の申し出があり、連絡先等の把握をしている。地域の避難場所を確認し、備蓄品の用意をしている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、プライバシーや自尊心を損なうことがないように日頃より声がけなどに注意し接している。	管理者は、利用者に対し「人生の先輩」という意識を持つ事や声かけの仕方等について伝えている。利用者のプライバシー保護の為に、トイレの戸は必ず閉める、申し送り時の声は小さくする等の配慮をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中から、本人の要望や思いを汲み取るよう努めている。 可能な限り、叶うように働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を送れるように支援している。 その人のペースを尊重し支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服やおしゃれなど、満足のいく身だしなみができるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲で食器吹きなどのお手伝いをお願いしている。役割を持つことで満足感を得られるように努めている。	利用者に合わせて食形態を考慮し、主食だけ先に食べてしまう場合は、1つの皿に盛り付け均一に食べられるように支援している。準備等に気持ち良く参加出来るように、行為の後は感謝の気持ちを伝えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付け方を工夫したり、刻みなどの対応をして食べやすいように努めている。 水分量を表にして管理している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ケアをしている。 必要に応じてスタッフが介助にてブラッシング等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を生かして声掛けを実施。排泄サインを見逃さないよう注意深く見守っている。	排泄チェック表を活用し、個々に応じて対応する。自立に向けた取り組みとして、声かけを多くし、極力トイレでの排泄を促している。失敗した場合は、大きな声を出さない等羞恥心に配慮した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(ヨーグルトや牛乳など)をおやつに取り入れている。また、レクリエーションで腸内運動も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の希望や体調、バイタル状況等をもとに、柔軟に対応している。	利用者の気分や体調に合わせて対応し、入浴嫌いの利用者には、日時をずらす等工夫している。希望により同性介助をおこなう。入浴が楽しめる様にゆず湯等をし、職員は見守りをおこない安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮しながら、昼寝をすすめたり、就寝時間を変更してケアしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬一覧をスタッフの目の届く場所に表示して効能や副作用について把握できるようにしている。症状の変化をNSやDrに都度報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の片付けやチラシでのゴミ箱作りなど、出来る範囲内でお願している。役割をもつていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩に出掛けたり日向ぼっこをしている。外食会などの外出レクリエーションも実施している。	気分転換や運動の為に、1週間で全員が散歩に行けるようにし、屋内でもテレビ体操等を実施している。外気浴や中庭の家庭菜園で収穫する等屋外に出る機会を設けている。事業所で花見に行き、おやつを食べる事を、利用者はとても喜んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務長が管理している。買い物の希望がある時は一緒に行ったり、スタッフが代行したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ある利用者様は携帯電話を所持しており、いつでもご家族と通話できる環境にいる。他の方に関しては要望があった際、スタッフが電話をかけ通話できる環境を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓はもちろん、トイレの場所が分かりやすいようにプレートを表示したり、工夫している。	利用者と職員と一緒に装飾を作る事で、季節感が得られる。エアコンの誤操作を予防する為に、職員が室温調整をしている。利用者個人の物は、分かり易いように記名し、雑誌は、手の届く所に配置する事で、自由に読む事が出来るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相撲観戦やニュースをご覧になることが好きな方はなるべくTVの近くの席にしたり、窓辺が好きな方はそのようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは介護用ベッドを利用しているが、寝具に関しては使い慣れたものを使っていた。写真や思い出の品を居室内に貼って、居心地の良い空間を作っている。	仏壇、テレビ等使い慣れたものを持ち込み、安全の為に電気コード等の位置を考慮する。認知症の進行に合わせて衣類の量調整等をおこなう。職員は、利用者らしい居室になるように、写真等を一緒に貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内表示はイラストを使って分かりやすいものになっている。 廊下の動線は常に確保しており、手すりも利用しながら歩行しやすい環境を整えている。		